果樹・茶用殺菌剤

ナリア®WDG

「高い防除効果を」の声に応えたい。
2成分の力で、幅広い病害を長期間
しっかり防除する、果樹・茶用殺菌剤。

1 1剤で夏期病害を防除

2成分混合により、斑点落葉病、黒斑病、黒星病、輪紋病、褐斑病など夏期病害に高い効果を発揮します。

2 広めの散布間隔

残効性に優れるので、広めの散布間隔でも防除ができ、梅雨期でもゆとりのある防除体系が組めます。

3 収穫前日※まで使用可能

果実への汚れが少なく、収穫前日まで使えるので、早生種と晩生種の混植園でも使用できます。

※小粒核果類、大粒種ぶどう、かんきつ、茶、ホップは除く。

®=BASF社の登録商標

BASF
We create chemistry

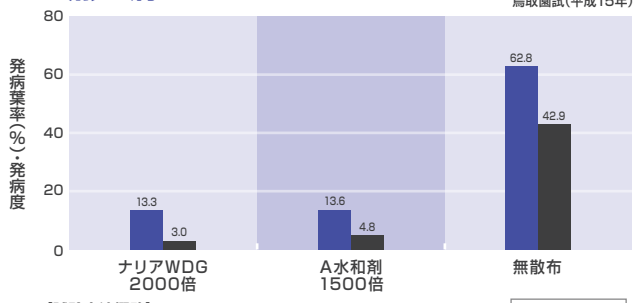
ナリア® WDG

登録番号：第21795号　　有効成分：ピラクロストロビン…6.8%、ボスカリド…13.6%
人畜毒性（製剤）：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

殺菌剤分類　11, 7

なし 黒星病

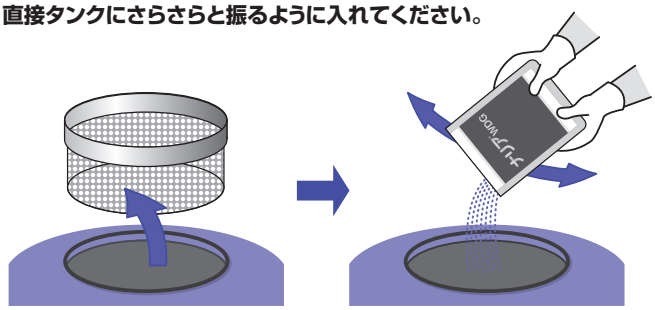
鳥取園試（平成15年）



【試験方法概略】
品　　種：幸水
散　　布：4/14, 28, 5/6, 16
発病程度：多発生
調　　査：6/4

【ナリアWDGの溶かし方】

タンクに水を張った後、タンクの網を取って、
直接タンクにさらさらと振るように入れてください。



適用作物・病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピラクロストロビンを含む農薬の総使用回数	ボスカリドを含む農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病、黒星病、褐斑病、炭疽病 すす点病、すす斑病、輪紋病、黒点病 うどんこ病、腐らん病	2000倍	200～700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
なし	黒斑病、黒星病、輪紋病 うどんこ病、炭疽病							
おうとう	灰星病、炭疽病、黒斑病 褐色せん孔病、幼果菌核病							
もも	灰星病、ホモプシス腐敗病、黒星病 果実赤点病、すすかび病 うどんこ病、炭疽病				2回以内		2回以内	2回以内
ネクタリン	灰星病、ホモプシス腐敗病、黒星病 うどんこ病、炭疽病							
かき	落葉病、炭疽病、うどんこ病	2000～3000倍						
	灰色かび病	2000倍						
大粒種ぶどう	晩腐病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内	3回以内
かんきつ	そうか病、黒点病、灰色かび病	2000～2500倍		収穫14日前まで				
	炭疽病（さび果）、小黒点病	2000倍						
小粒核果類*（うめ、すももを除く）	黒星病、灰星病			収穫7日前まで	2回以内		2回以内	2回以内
うめ	黒星病、環紋葉枯病、すす斑病 灰色かび病、灰星病、うどんこ病							
すもも	黒星病、灰星病、ふくろみ病			収穫前日まで				
キウイフルーツ	灰色かび病、すす斑病、果実軟腐病							
茶	炭疽病、輪斑病、新梢枯死症、もち病、網もち病 褐色円星病、黒葉腐病、赤葉枯病		200～400ℓ/10a	摘採7日前まで				
ホップ	べと病、うどんこ病		200～700ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内		3回以内	3回以内

*小粒核果類：うめ、あんず、すもも

⚠ 効果・薬害等の注意

●散布液調製の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えてください。
●薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用してください。
●なしに使用する場合、開花始めから落花20日頃までの散布は、葉に薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
●なし品種のル・レクチエには果実に薬害が生じるおそれがあるので、袋掛け後に使用してください。
●ぶどうに使用する場合は、果粉溶脱のおそれがあるので、大豆大以降の使用は注意してください。
●ぶどう品種のピオーネには葉および果実に、藤稔、サニールージュ、シャルドネには葉に薬害を生じるおそれがあるので、周辺にある場合にはかからないよう注意してください。
●かきに使用する場合、浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると薬害が生じるおそれがあるのでさけてください。
●蚕に対して影響があるので、付近に桑畑があるときはかからないように注意して散布してください。
●本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

〈小粒核果類について〉
●適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 安全使用上の注意

●誤飲・誤食などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けてください。
●本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
●本剤は皮ふに対して刺激性があるので、皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
●散布の際は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は、手足、顔などを石けんなどでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
魚毒性：水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
保　管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

このチラシの記載内容は2022年10月現在のものです。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。
●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

BASFジャパン株式会社
東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
0120-014-660　https://crop-protection.basf.co.jp/

9800300 25
202210